

ふくみね

令和2年6月10日
高田小学校便り



学校再開

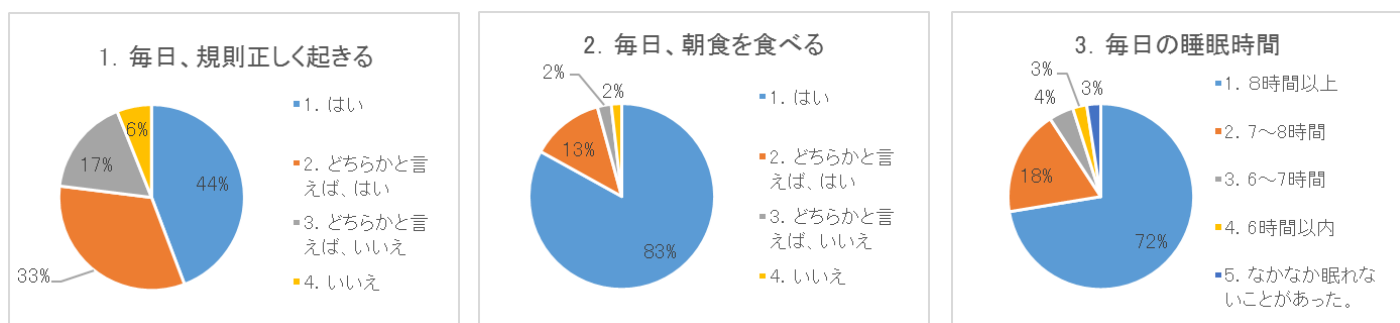
約3か月間空っぽだった学校に、子どもたちの笑顔が戻ってきました。これも児童と家庭、地域の方々のコロナウイルスに対する感染予防の取組のたまものだと感じています。まだまだ、いろいろと制限があったり、行事が中止になったりしていますが、引き続き感染防止のご協力とご理解をお願いします。



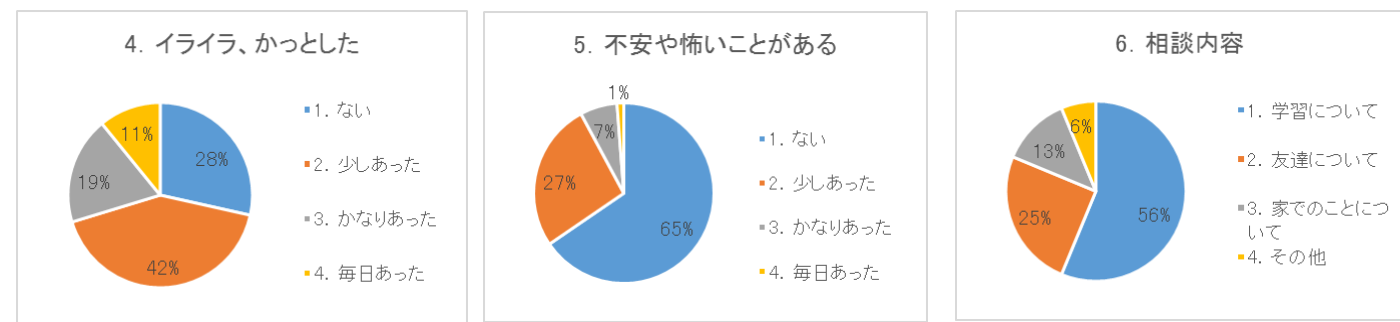
初めての給食

＜臨時休業中の生活アンケート（5月実施）＞

5月末に臨時休業中の児童のようすを、アンケートしました。その結果の一部です。



約8割の児童については、同じ時刻に起床し、朝食も毎日食べ規則正しい生活を送ることができていたようです。その一方で、朝食をあまり食べなかった児童が4%、朝決まった時刻に起きられない児童が6%います。また睡眠時間についても、なかなか眠れなかった児童が3%いることや、7時間以下の睡眠しかとれていない児童が1割います。学校が再開した現在もこの状態では、授業に集中できなかつたり体調を崩したりすることになるので、生活リズムを整えることが急務です。



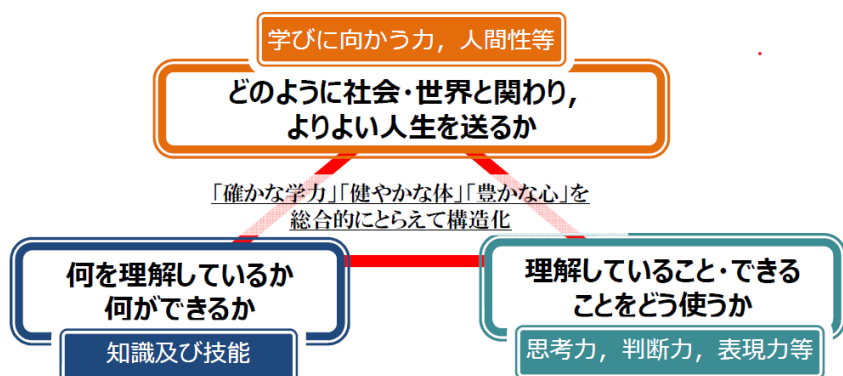
臨時休業中の心の状態ですが、数字でも表れているようにイライラ感を感じた児童が7割あり、毎日感じた児童が11%もいることが分かりました。長い外出自粛の中で、子どもたちも相当のストレスを感じていることが明らかになりました。学校としても、担任を中心として全職員およびスクールカウンセラー（第4木曜日）とともに、児童の心のケアに努めます。

【6月・7月・8月の行事】

19日（金）漢字検定		
20日（土）書写コンクール【中止】		
23～25 地区懇談会【中止】	8月8日（土）～16日（日）夏休み	
29日（月）心電図（1年生）	8月31日（月）1学期終了	

新学習指導要領スタート その2

1 次の社会に育成すべき資質・能力の3つの力とは



これからの子供たちは、急速に変化し、予測不能な新しい時代を生きていくこととなります。今回の学習指導要領の改訂では、これから育成すべき3つの力が示されました。（左図参照）

- ① 学びに向かう力, 人間性等
- ② 思考力, 判断力, 表現力等
- ③ 知識及び技能

この3つの力を学校で育成していくことが、新たな目標となりました。これからの

「生きる力」として、たとえどんなに社会の仕組みが変わろうとも子供たちが対応できるようにしていくことが、求められています。

そこで、授業も変化します。明らかに変化が見られるのは、3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語の教科化、プログラミング教育の各教科への導入です。どちらも、教師自身がまだまだ研究しなければならない分野で、校内研修と実際の授業で改善を進めているところです。

2 学習評価の観点も3つになります

学習評価の観点	
2019年度まで	2020年度から
① 関心・意欲・態度	① 主体的に学習に取り組む態度
② 思考・判断・表現	② 思考・判断・表現
③ 技能	③ 知識・技能
④ 知識・理解	

これまでの通知表では、たとえば算数の場合、①算数への関心・意欲・態度、②数学的な考え方、③数量や図形についての技能、④数量や図形についての知識・理解の4観点となっていました。2020年度からは、全ての教科で左の表のように3観点となります。

3 3つの観点は何をどうやって評価するのか

	① 主体的に学習に取り組む態度	② 思考・判断・表現	③ 知識・技能
何を	知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、 <u>自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか</u> という意思的な側面を評価。	各教科の知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかどうかを評価。	各教科の学習を通して習得した知識・技能を評価。同時に、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解したり、技能を習得したりしているかを評価。
どうやって	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノートやレポート等における記述 ○ 授業中の発言 ○ 教師による行動観察 ○ 児童による自己評価や相互評価など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テスト ○ 作文やレポートの作成 ○ 発表 ○ グループや学級における話し合い ○ 作品の制作や表現など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テスト ○ 授業で実際に知識や技能を用いる場面を設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が文章による説明をする ・ 観察や実験をする ・ 式やグラフで表現するなど

自らの学習を調整するとは、自分の学習を振り返って、粘り強く、仲間と助け合いながら課題に挑戦することで、最近では「非認知能力」という言葉でよく取り上げられています。テストでは認知できない能力なので、こう呼ばれています。重要なのは、②や③の力を支えるのが、①主体的に学習に取り組む態度だということです。「めあて」「振り返り」を福mineノートに書く、掃除を頑張る、相手の話をきちんと聞く、難しいことから逃げない、を普段から心掛けることで、①の力を育てることができます。